

穏やかな1年の始まりです。お天気に恵まれ、里山の家には早くから子どもを含む大勢の参加者が集まっています。藪こぎでたくさん歩くことも多い1月の自然観察会ですが、この日は次々と観察対象が現れて思いのほか移動距離が短くなりました。寒い中にも生きものが春を待つ姿を観察することができました。

里山の家での持ち込み観察項目：ホシホウジャクの幼虫、ナガサキアゲハの標本、ソウシチョウの写真、日本のカブトムシカレンダー

まず**オオハナワラビ**を見に行きました。フユノハナワラビと似ていますが、栄養葉の形の違いなどによりオオハナワラビとされました。クワの切り株には**エノキタケ**がしていました。食材のエノキタケとは色も形も大きく違っていました。そばの**シホウチク**では、稈のザラザラした手触りと角張った形を確認しました。



続いて観察した**コウバイ**はつぼみが膨らんでもう間もなく咲きそうに見えました。大坂池の周辺で**イボタノキ**の黒い実やアンスがつぼみをつけた枝を観察しました。アンスの木には**ミノムシ**がついており、「珍しい」との声が上がりました。近年は寄生バエや農薬の影響で数が減っているとの説明がありました。



オタマジャクシ池の上段で**水辺を回復する工事**が施され、水たまりができていました。意外なほどの水の量だと驚く参加者もいました。オタマジャクシ池には**氷**が張っていて子どもが池から取り上げました。氷の厚さは2mmほどでした。**センダン**の木には淡い黄色の実が目立っており、少し離れたところから眺めました。



エノキの根元の落ち葉の裏で越冬する**ゴマダラチョウの幼虫**を観察しました。**エノキの葉**の特徴として側脈が左右非対称になっていることが紹介されました。エノキの葉の表面には**虫こぶ**がたくさんついていました。



虫網を振った参加者がニッポンオナガコバチを捕らえました。クロガネモチの実に寄生するハチで、実の産卵痕も観察できました。雑木林に入り、クスノキの幼木で越冬するアオスジアゲハの蛹を見ました。ほかにもないか探しましたが、なかなか見つかりませんでした。林床ではたくさんのヤブコウジが赤い実をつけていました。



クロガネモチの実



アオスジアゲハの蛹



ヤブコウジ

ガマズミ属の2種を観察しました。ガマズミの葉は一枚残らず落ちていましたが、ミヤマガマズミの方はまだ少し残っている葉がありました。実を食べると赤色の種が一つ入っていました。すぐそばでモズのはやにえが見つかりました。獲物はツチイナゴでした。はやにえの目的は、縄張りのアピール、保存食など諸説あるようです。



ガマズミの実



ミヤマガマズミ



モズのはやにえ(ツチイナゴ)

尾根に向かって斜面を登る途中、サトユミアシゴミムシダマシを捕らえて観察しました。その名の通り前肢が弓状にカーブしていました。足元の地面がふわふわなのに気づいて子どもたちと一緒に掘って見ましたが、木の根が絡み合っていて深くは掘れませんでした。近くの木が倒れて根が浮き上がったところに落ち葉や土が積もって空洞が生まれたのでは、と予想しました。すぐそばのマツではヤニサシガメの幼虫が見つかりました。



サトユミアシゴミムシダマシ



地面を掘る



ヤニサシガメ

道端にカマキリの死骸が落ちていました。外来種のムネアカハラビロカマキリでした。翅の部分に傷があり鳥に襲われて命を落としたのではという意見が出ました。足元にはマテバシイの幼苗が3本並んでいました。この場所で3本もまとまって芽を出すとは考えにくいので、人の手で持ち込まれたのではないかという人もいました。最後にハクサンボクを観察しました。同じガマズミ属のミヤマガマズミやガマズミは落葉樹であるのに対しこちらは常緑樹で、冬の柔らかな日差しを浴びた葉がツヤツヤと光っていました。



ムネアカハラビロカマキリの死骸



マテバシイ



ハクサンボク

平和公園での観察項目(観察順):オオハナワラビ,シホウチク,エノキタケ,ネザサ,タイワンタケクマバチの巣穴,コウバイのつぼみ,ハクバイ,アンズ,イボタノキの実,セリ,ミノムシ,オタマジャクシ池の改修,池に張った氷,アカマツ,カナブンの翅,メジロの群れ,センダン,アカメガシワ,ゴマダラチョウの幼虫,エノキの葉,エノキの虫こぶ,ニッポンオナガコバチ,クロガネモチの実,オオカマキリの卵鞘,マサキ,ヘクソカズラ,ヒトリガの幼虫,アオスジアゲハの蛹,ヤブコウジ,ガマズミ,ミヤマガマズミ,モズのはやにえ(ツチイナゴ),サトユミアシゴミムシダマシ,ヤニサシガメ,ムネアカハラビロカマキリの死骸,マテバシイ,ハクサンボク